

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2016

3月

No.129

特集

P2・3

生活支援コーディネーターと協議体

2015年
改正介護保険制度あらまし②



ひ孫と
いっしょ

波賀町 有賀 シリーズ128

宮治 繁一さん(87歳)

源子さん(87歳)

○ 朔久くん(2歳)

宮治 幸季さん・由紀さん

■長男

生活支援コーディネーターと協議体

2015年
改正介護保険制度
あらまし②

改正介護保険の「新しい地域支援事業」って？

昨年4月に介護保険制度が改正されました。今月号では制度改正の中心である生活支援コーディネーターと協議体の役割について説明します。

新しい地域支援事業

新しい総合事業

介護予防・生活支援サービス事業
一般介護予防事業

生活支援サービスの 体制整備

(包括的支援事業)

生活支援コーディネーター
協議体

『生活支援コーディネーターと協議体』CLC発行から転載

地域福祉と地域づくりの
2つのしくみ

今回の介護保険制度改正における「新しい地域支援事業」は「新しい総合事業」と「生活支援サービス体制整備(包括的支援事業)」の二つで構成されています。また、この二つは、地域福祉や地域づくりの視点からトータルに

協議体

住民主体で
つくります

とらえることが必要です。

新しい地域支援事業のうち、協議体づくりは、社会福祉法人、NPO、協同組合、企業などの多様な主体の参加が期待されています。また、その基盤となる「一般介護予防事業」は「介護予防・社会参加・生活支援」といわれているように、地域で暮らしていくために住民の様々な生活行為(暮らし)や住民同士の関わりを活性化し、閉じこもりにならないようにすること。

また、家から外に出て地域の仲間と交流する中で、支え合う関係やその人らしい役割がある暮らしづくりが期待されています。

今回の介護保険制度改正の目的は、地域づくりであり、支え合う共生社会をつくっていくことです。そのためには、地域住民自らがそのことを考え、地域の活動を見直し、困りごとなどをお互いに支え合う活動とし



このような住民参加の協議の場がますます必要です

て、さらに広げていくことが重要です。

このような地域づくりを進めるためには、地域住民が主体となり、関係する多様な活動主体が参加し、お互いに知恵を出し合い、活動を活発にする「話し合いの協議の場」が必要です。このような「話し合いの協議の場」が「協議体」です。

地域ケア会議と協議体の 違いを明確に

「協議体」の設置で大事なことは、最後まで地域で暮らし続けるための支え合いを生み出す仕組みづくりです。

介護サービス利用者を支援やサービスの対象者として区別して見るのではなく、地域の一人として認め合うことが大切です。地域の中で支えあう力と地域の中で包み込む力を育むことです。

地域包括ケアシステムでは、「地域ケア会議」の充実が求められており、支援が必要な方のサービス調整等はこの会議やサービス担当者会議で行われています。このように地域ケア会議は、個別のケアを中心として当事者や家族、関係機関や事業所、専門職の会議として位置づけられています。

一方、「協議体」は、地域活動をしている人、地域の物知り、世話好きの人、元気高齢者などが中心となり、専門職と一緒に地域の支え合いを発展させ、新たな地域づくりを進める場です。

地域ケア会議と協議体の目的・構成員など

	目的	主な構成員
地域 ケア会議	個別の要介護者等の課題解決	専門職・機関・行政等+住民
協議体	支え合いの地域づくり	住民が主体。専門職・機関・行政等は側面から支援

このような違いを明確にした上で、「協議体」をどのように作っていくのかを考えることが大切です。

穴栗市では、平成28年度から次に説明する「生活支援コーディネーター」を旧町域エリアに配置することが、市の第6期介護保険事業計画で位置付けられ、その事業を社協が受託する予定となっています。

新たに配置される

生活支援コーディネーター

生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）は、地域の支え合い活動を発掘したり、新たな支え合い活動の推進役を担います。

住民と関係者や機関などをつないだり、現在ある取り組みや



県主催の生活支援コーディネーター養成研修会

組織などとうまく連携し暮らしやすい地域を取り戻す活動を支援することが役割です。

このコーディネーターは、市域（第1層）や旧町域（第2層）に配置されることが想定されています。第1層のコーディネーターは、市域での取り組みです。第2層は、住民同士の顔がよく見え、日常生活で住民の交流がある範囲となります。コーディネーターは、住民がもつ様々な情報を把握し、その情報をどう生かすかを考え、住民同士の活動がより促進されるよう支える役割があります。

いずれにしてもコーディネーターは、今回の制度改正の大切な部分を担う新しい職種です。地域が今よりもっと暮らしやすく、豊かになるよう協議体の活動に関わりながら介護予防を通じて地域づくりを進めていくものです。

や

まさき

身近な居場所で介護予防!

下宇原自治会のふれあい活動

3月3日(木)、下宇原自治会の公民館で『ふれあい喫茶』が行われ、21人が参加しました。

同喫茶では、福祉委員が中心となり、介護予防につながる工夫を取り入れています。

この日は、ひな

祭りを兼ねて、ちよつと豪華なメニューが準備され、リズム体操や脳トレビンゴゲームが行われました。

参加者からは、「今日は難しかったけど楽しかった」「よく笑って頭も体もよう使ったわ」など、感想がありました。

また、「気軽に寄れる場所を増やしてほしい」という要望があり、折り紙や手作りおやつでのんびり過ごす『おりがみの会』が開催されるようになり、活動が広がっています。



懐かしい歌を合唱しながら体を動かし二つの動作を同時に行う体操。正面中央で指導する西脇さん(下宇原公民館)

「気軽に寄ってみんなで楽しく元気に過ごしてもらえる居場所にしたい」と、代表福祉委員の西脇恵美さん。

身近なところで気軽に寄れる場を地域のいろいろな所に作ることは、介護予防や閉じこもり予防につながります。

こうした「居場所」が、地域の中に増えていくよう、社は応援します。

(山崎支部 森井裕矢)

い

ちのみや

31年間続く「地域づくりと学び」の発表会

いちのみや生涯学習実践発表会

2月28日(日)、いちのみや生涯学習実践発表会が神戸小学校体育館にて開催され、220人の参加がありました。

この発表会は、31年間続いており、生涯学習の成果を発表し、地域づくりの取組みを共有する場となっています。

当日は、横山・深河谷・嶋田・森添・曲里・山田の6自治会から発表がありました。

横山は、ちゃんちゃこ踊り。

森添は、観音講を通じた伝統文化の継承。深河谷は、あじさい祭り。曲里は、水害の歴史学習会。嶋田は、祭りを通じた地域づくり。山田は、石垣まつりと棚田のあかりの取組みを発表されました。

横山の学習委員 太中欽也さんは、「地域の現状は厳しく、ますます住民同士の支え合いが必要になっている。暮らしの中



地域の特性を生かした取組みが発表されました(神戸小学校体育館)

の無いものを探すより、今あるものを地域づくりに生かしていきたい」と話されました。地域の学習会や伝統行事は、住民が気軽に集える場や福祉活動の担い手づくりにもつながります。

これからも、みなさんの学びと実践を生かし、「地域福祉」と「まちづくり」をいっしょに進めていきたいと思います。(本部・一宮支部 三宅あゆみ)

や・い・は・ち トピックス

地域のみなさんに見守られ

しろう自立の家

しろう自立の家は、知的障がいを持つ人たちが自立して生活できる「家」として運営されている小野にある福祉施設です。

買い物や食事、散髪などは自分たちで地域に外出します。

3月2日（水）、道の駅で買い物される自立の家の入居者をお見かけし、帰り道に同行させていたいただきました。

「歩いていると近所の人が声をかけてくれるし、お店の人は優しいので、買い物に行くのが楽しい」と、入居者の左雲和代さん。

生活支援員の小林早織さんは、「万に備えて、入居者の方は『名刺カード』を持っていくので、地域の方と連絡も取り合う事ができて安心

です」と話されます。

ちよつとした地域のあたたかい見守りや声かけが、住み慣れた地域で安心して自分らしく暮せることにつながっています。何気ない会話やコミュニケーションの大切さをあらためて感じました。

（波賀支部 平有利菜）



「いつも二人仲良く歩いとるのを見るよ」
帰り道に地域の方とお話（小野自治会）

グリーン先生との交流を通して

ちくさ杉の子こども園

2月17日（水）、新園舎に移り5か月が経過した、「ちくさ杉の子こども園」を訪ねました。

この日は、月一回の英語指導助手（ALT）のアンバー・グリーン先生（22）と園児（3・4・5歳）たちの交流でした。

「How are you（ハウアイユー）」のあいさつから始まり、アルファベットを読んだり、カードの色を英語で答えたり、遊びも交えながら園児たちは英語にふれていました。

「いつも楽しく英語を教えています」と、笑顔で話されるグリーン先生の姿は本当に素敵で、「アルファベットの並び替えが難しかったけど、楽しかった」と園児たちの声からも熱心さが伺えました。



「レッド」…すばらしい発音です（ちくさ杉の子こども園）

千種町では、園・小・中と、ALTとのふれあいを通して、外国の文化や英語にふれる機会を設けており、子どもたちの成長の一端となっています。子どもたちが持っている可能性や個性をどのように引き出していくのか、これからの穴を創りあげていくためにはとても大切なことです。

最後は「See you（シーユー）」で先生とお別れした園児たち。来月も先生との再会が今から楽しみです。

（千種支部 波多野好則）

はが

ちくさ

地域で! 職場で! 学校で!

「福祉」を考える機会をつくりませんか

ボランティア・市民活動センターでは、自治会や学校、企業や事業所等で「福祉」を学び、考える機会を持っていただけるよう福祉学習を推進しています。

学習内容は、参加者の人数や年齢、またそれぞれのテーマに合わせ講師を調整し、要望に沿った学習が取り組めるようにコーディネートします。

みなさんぜひ新たな取り組みとして「地域」・「職場」・「学校」で福祉学習を始めましょう。福祉学習についての相談、また詳細等は本会各支部へお問い合わせください。



福祉学習メニュー(一部紹介)

講演、グループワーク型

- ・認知症学習 ・介護保険 ・災害学習
- ・地域づくり(市内・市外の先進地域の取り組みなど)

体験型学習

- ・車いす体験 ・視覚障がい者体験 ・高齢者疑似体験

当事者参加型学習

(当事者団体・ボランティアグループの協力)

- ・手話体験 ・点字体験 ・盲導犬学習



西深自治会では「認知症の見守り」をテーマに福祉学習会を実施(H27.8.8)

▲問合せ:各支部

住友生命 地域貢献活動

「はなちゃんのみそ汁」 特別上映会

参加費無料



4月3日(日)

センターちくさ大ホール

①13:00~

4月16日(土)

山崎文化会館

①10:00~ ②14:00~

(開場は両会場上映30分前)

がんでこの世を去った千恵、33歳。5歳の娘と夫、愛する人へ伝えたい、いのちのメッセージ。

★申込み・お問合せ先(事前にお申込みが必要です)

住友生命山崎佐用支部 Tel:62-0692

主催:住友生命山崎佐用支部 後援:栄栗市社会福祉協議会

退職後を楽しく過ごすために!



災害時に役立つ「ポリ袋クッキング」に挑戦(マイプル福祉センター)

2月17日(水)セカンドライフ応援セミナー終了

退職世代の方々を対象に開催した第4期セカンドライフ応援セミナーが終了しました。今回は料理を通じて家族のため、地域のために何ができるかをテーマに全4回にわたり講座を実施しました。

講座を終えた受講生から「セカンドライフをどのように過ごすかを考える良い機会でした」「料理が好きなので配食サービスのボランティアをやりたい」などたくさんの感想をいただきました。

この講座がきっかけとなり、楽しく充実した活動へとつながるよう本会では今後もみなさんを応援していきます。

(千種支部 小原志のぶ)